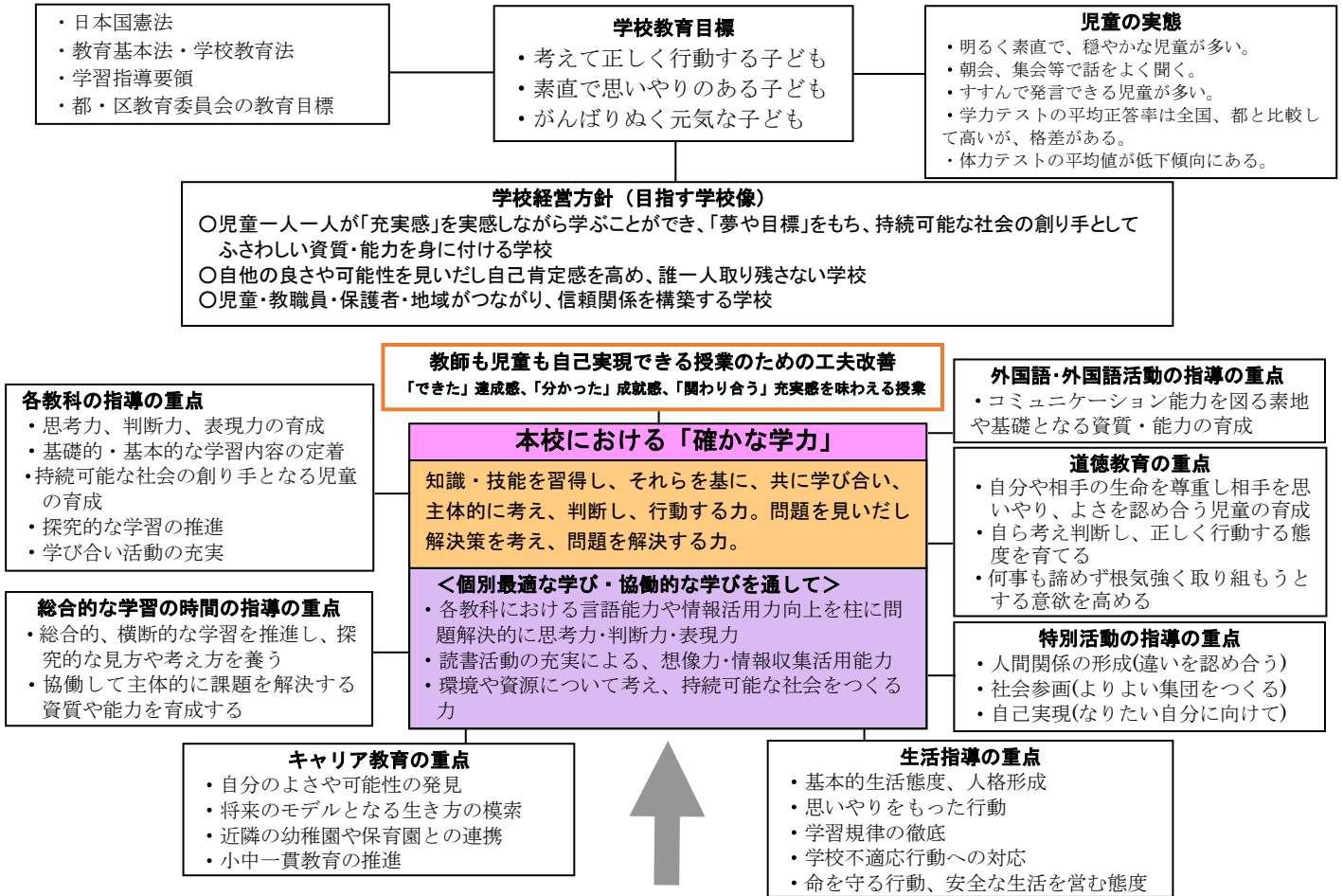


令和7年度 学力向上を図るための全体計画

練馬区立春日小学校



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
・単元や1単位時間の見通しをもたせ、問題解決学習を行う。振り返りを次につなげ主体的な学習を促す。 ・言語活動の充実を図り、各教科において対話を通じて自己の考えを広げ深める場面を設定する。 ・児童に考えさせることを明確にして指導計画を作成する。 ・学年の発達段階を踏まえた学習スキルの習得を図る。 ・体験的な学習や基礎的、基本的知識、技能を活用した問題解決学習を実施する。 ・タブレット端末を活用し、情報活用力や考えを発信する力を付ける。(ICTの活用)	・算数科で、第3学年以上は各学年3展開(単学級は2展開)の習熟度別指導、第1、2学年は各学級担任とT2による指導を行い基礎・基本の確実な定着を図る。 ・朝の時間(春日タイム)等に、国語と算数の基礎・基本の確実な定着を図る。 ・年間3回読書週間を設定し読書活動の推進を行うことで多くの語彙獲得や多様な表現力の向上を目指す。	・「今や未来を自分事として考えられる児童の育成～ESDの視点に立った主体的・協働的な学びを通して～」を校内研究のテーマに、低・中・高の分科会ごとに目指す児童の姿を実現するため「主体的な学びへの手立て」「協働的な学びへの手立て」を研究の視点として改善・充実を図る。 ・分科会での研究をもとに学習指導案を作成する。事前授業、研究授業、検証授業を実施し、深化を図る。 ・学年の実態に応じてSDGsへの関心を深められるように各教科や日常の活動の中で取り組んでいく。 ・練馬区研究奨励校として研究発表を行う。	・年間指導計画に合わせて各単元の評価規準を作成する。 ・1単位時間ごとのねらいを明確にした週ごとの指導計画を作成する。各教科の目標に準拠して三観点による形成的評価を行う。学習評価を授業改善に生かし、組織的に取り組む。 ・保護者、地域、児童によるアンケート調査を実施し、結果を踏まえ自己評価を行う。その結果を基に学校関係者評価を実施し、授業改善に活用する。	・学校地域連携事業等を活用し、地域の多様な知識経験を有する人材、自然環境、施設等を活かして豊かな教育活動を実践する。 ・地域の幼稚園児や保育園児との交流を実施する。 ・保護者会、道徳授業地区公開講座、学校保健委員会等を通して、基本的生活習慣や規範意識の育成への協力を依頼する。 ・ホームページで授業の様子を発信する。 ・地域の行事にできるだけ参加する。 ・地域や消防と連携し、学年ごとに訓練内容を設定した総合防災訓練を実施する。 ・学級通信で児童の様子を伝える。	・課題改善カリキュラムの周知、活用をする。改善する教科を増やし指導に生かす。 ・校区別協議会では、中学校の授業参観と生活指導に関わる分科会を行う。2回目は全教科の授業公開と分科会を行い、グループの小中4校で連携して授業実践の向上に努める。 ・第6学年を対象とした中学校授業体験、に参加し中学校進学に希望をもたせる。

<授業改善策の検証方法>

- ・教員の自己評価(年2回)
- ・保護者、学校評議員による学校評価
- ・学年、教科部会による評価
- ・評価内容を職員会議で共有し、改善策を検証する。